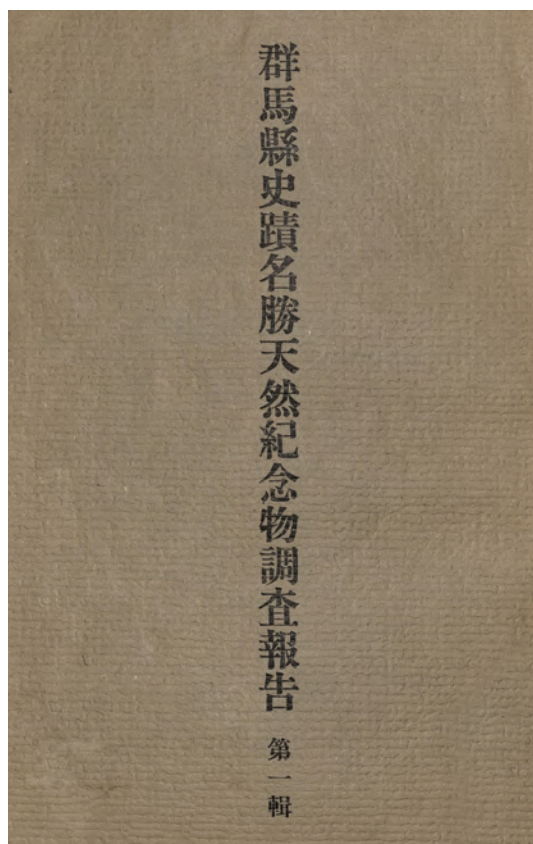


群馬県史蹟名勝天然記念物 調査報告 第一輯

復刊版



群馬地域文化振興会

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調查報告

第一輯

序

自然が人類に影響し、歴史が人心を感化するは、古今東西を通じて動かすべからざる處。就中居常耳目に親しむ郷國の山河郷土の歴史が如何に深き感化をその郷黨に與ふるかは論を俟たざる所とす。而して、名勝は自然の精粹にして、史蹟は歴史の精華たり。之を保存し顯彰する所以のもの、單に自然の美景を讃仰し、先人の遺業を追慕し、又は學術研究に裨補するに止まらず、倚つて以て郷土愛護の觀念を旺盛にし、國民精神を涵養するに在り。本縣が史蹟名勝天然紀念物に對する調査の結果を報告せんとするも亦此意義を明かにし、周く縣民の理解を深め、以て史蹟名勝天然紀念物保存の事業を完

うすると共に、其究極の目的を達成せんとするに他ならず。此處に其第一着手として、曩に内務大臣より指定せられたる史蹟及名勝に關し報告することゝしたり。本輯及今後引續き刊行せらるべき報告に依つて、所期の目的を達成するを得ば欣幸とする所なり。

昭和四年六月

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査會長 岡 本 保 三

凡 例

一、本縣に於ける史蹟名勝天然紀念物の數は相當多く、且つ既に調査を了せるものも尠くないが、本調査報告には取敢ず史蹟名勝天然紀念物保存法に依り指定せられたる史蹟十五件、名勝一件のみを載録することゝした。

一、本縣には他に天然紀念物むじなもの指定せられしがあるが、之は不告示として秘密の取扱を受けてゐるから本報告には省略することゝした。

一、史蹟の中上野國分寺趾、多胡碑、山上碑並古墳及金井澤碑に關しては、既に先年、内務省より刊行せられたる史蹟精査報告第一及史蹟調査報告第二に詳細記述せられてゐるから併せ讀まるゝならば裨益せらるゝ處多からうと思ふ。

一、本調査報告は主として一般縣民に指定物に對する概念を與ふる目的を以て書いたのであるが、之に依り指定地域の土地所有者又は管理者の注意を喚起し、一層愛護の念を深からしむることゝもならば更に幸である。

一、本調査報告は本縣史蹟名勝天然紀念物調査會顧問たる柴田常惠先生指導の下

に執筆し、且つ御懇篤なる監修を受けたるものにして、若し、本調査報告が縣當局所期の目的に副ひ又多少なりとも學界に寄與する處ありとせば全く先生の指導の賜である。

一、本調査報告挿入の實測圖は調査會臨時委員福島武雄氏の作製に俟つものが多く、報告作製に先立ちし調査に際しては同委員豊國義孝、勢多郡史編纂主任原田龍雄の兩氏並縣係員たる大圖軍之丞氏、吉澤澄治氏等の御援助及地元町村並土地所有者等の御盡力を煩したことが多い。茲に記して深甚の謝意を表する次第である。

昭和四年六月

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査會臨時委員

高橋 城 司

目次

一	瀧澤石器時代遺蹟	一
二	前二子古墳	二三
三	中二子古墳	三九
四	後二子古墳並小古墳	四七
五	二子山古墳	五七
六	淺間山古墳	六九
七	大鶴卷古墳	八一
八	七輿山古墳	八九
九	女體山古墳	一〇三
一〇	二子山古墳	一〇九
一一	多胡碑	一一五
一二	山上碑附古墳	一二九

一三 金井澤碑	一九
一四 上野國分寺址	一五一
一五 山王塔址	一七七
一六 妙義山	一八九

圖版目次

圖版第一	瀧澤石器時代遺蹟
圖版第二	瀧澤石器時代遺蹟(第一爐第二爐)
圖版第三	瀧澤石器時代遺蹟(第三爐石棒等發見地點)
圖版第四	瀧澤石器時代遺蹟發見品(裝身具、土器片)
圖版第五	瀧澤石器時代遺蹟發見品(石製品、岩版)
圖版第六	前二子古墳全景
圖版第七	前二子古墳石槨入口
圖版第八	前二子古墳羨門

圖版第九	四神齋瓮（前二子古墳出土）
圖版第一〇	四神齋瓮の一部
圖版第一一	前二子古墳實測圖
圖版第一二	前二子古墳實測圖
圖版第一三	前二子古墳石槨實測圖
圖版第一四	四神齋瓮實測圖
圖版第一五	前二子古墳齋瓮實測圖（脚付埴、脚付盤）
圖版第一六	前二子古墳齋瓮實測圖（脚付盤、環耳付提瓶）
圖版第一七	中二子古墳（埴壘）
圖版第一八	中二子古墳實測圖
圖版第一九	中二子古墳實測圖
圖版第二〇	後二子古墳後圓部
圖版第二一	後二子古墳遺物
圖版第二二	後二子古墳 附 小古墳實測圖

圖版第二三	後二子古墳石槨實測圖
圖版第二四	二子山古墳(總社町)全景
圖版第二五	二子山古墳(總社町)(後圓部石槨入口、同上羨道部)
圖版第二六	二子山古墳(總社町)(前方部石槨入口、同上羨道部)
圖版第二七	二子山古墳(總社町)齋瓮
圖版第二八	二子山古墳(總社町)遺物
圖版第二九	二子山古墳(總社町)實測圖
圖版第三〇	二子山古墳(總社町)斷面圖
圖版第三一	二子山古墳(總社町)石槨實測圖
圖版第三二	淺間山古墳全景
圖版第三三	淺間山古墳實測圖
圖版第三四	大鶴卷古墳全景
圖版第三五	大鶴卷古墳實測圖
圖版第三六	七輿山古墳全景

圖版第三七	七輿山古墳略圖
圖版第三八	七輿山古墳實測圖
圖版第三九	女體山古墳
圖版第四〇	女體山古墳實測圖
圖版第四一	二子山古墳(前橋市)全景
圖版第四二	二子山古墳(前橋市)實測圖
圖版第四三	多胡碑全景
圖版第四四	多胡碑
圖版第四五	多胡碑地域實測圖
圖版第四六	山上碑並古墳
圖版第四七	山上碑
圖版第四八	山上古墳石槨入口
圖版第四九	山上碑及古墳地域實測圖
圖版第五〇	金井澤碑全景

目次

圖版第五一	金井澤碑
圖版第五二	金井澤碑地域實測圖
圖版第五三	上野國分寺趾全景
圖版第五四	上野國分寺金堂趾の一部
圖版第五五	上野國分寺西塔趾
圖版第五六	上野國分寺趾遺瓦
圖版第五七	上野國分寺趾遺瓦
圖版第五八	上野國分寺趾礎石配置圖
圖版第五九	上野國分寺塔趾實測圖
圖版第六〇	上野國分寺金堂趾實測圖
圖版第六一	山王塔趾全景
圖版第六二	山王塔趾心礎
圖版第六三	山王塔趾礎石
圖版第六四	山王塔趾遺瓦

圖版第六五	山王塔趾心礎實測圖
圖版第六六	山王塔趾礎石實測圖
圖版第六七	妙義山全景
圖版第六八	第四石門附近より第二石門附近を望む（日暮しの絶景）
圖版第六九	第四石門より大砲岩等の奇岩を望む
圖版第七〇	妙義山御鏡岩附近の風景

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調查報告第一輯

一 瀧澤石器時代遺蹟

名 稱

瀧澤石器時代遺蹟

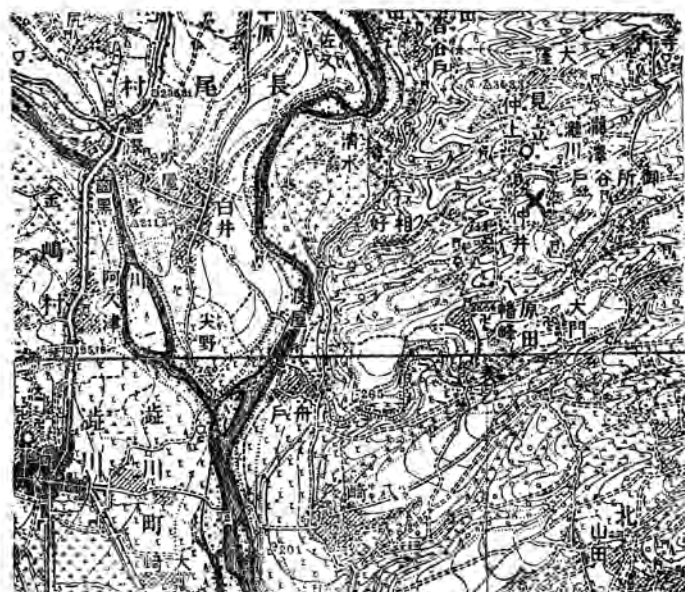
勢多郡横野村大字瀧澤と同村大字見立とに跨れる石器時代の遺蹟であるが、瀧澤に屬する地域が多いから、斯く稱へるに至つたのである。

所 在 地

勢多郡横野村大字

瀧澤
見立

赤城山の西南の根にあるもので、上越線澁川驛よりは東北約一里十七八町である。澁川町の東北なる大正橋を渡つて、道を左に取つてからは、桑園の間を通り、部



(一分萬五部量測地壁)圖形地近附蹟遺代時器石澤澁

落を過ぎ、又は山裾を廻つたりする。驛から二十二三町なる上越南線のガードの所で右折して、其下を潜ると、道は急坂となり、之を登りつめると、高爽なる臺地に出で、此臺地を斜に横切つて進むと一旦窪地へ下りるが、此時、眼前に横はる第二の臺地こそ本遺蹟の所在地である。(圖版第一参照)

地 籍

指定地域は東西に長く走れる丘陵で、東方は山の神と稱せられる小祠の境内、西方は澁川町方面より横野村役場へ通する道路を

以て限界とし、大部分は畑となれるが、山林、田、宅地、墓地及用水溜井となれる部分もある。總面積は三町二反十歩、内、用水溜井は國有であるが、他は悉く個人有で、其内譯は左の通りである。

地名	地番	地目	地積	所有者
勢多郡横野村大字見立字清水	六九六	畑	町反畝 五〇一歩	都丸茂造
同	六九七	山林	外一五歩 畦畔	同
同	六九八	宅地	二二六	都丸富士松
同	六九九	畑	二四二坪	都丸富士松
同	七〇〇	同	八二一	都丸才市
同	七〇一	同	外八歩 畦畔	都丸才市
同	七〇二	同	外一七歩 畦畔	同
同	七〇三	同	外一七歩 畦畔	同
同	七〇四	同	外一六歩 畦畔	都丸才市
同	六二八	山林	外一畝 畦畔	都丸利平
同	六二九	墓地	六二八 二二三	都丸桂治郎
同	六二九	墓地	一六	外三

同	同	都	桑	櫻	同	狩	同	同	同	都	永鳥桑	同	都	都	都
			丸	原		野				丸	井山原		丸	丸	丸
			助	半		作				助	名竹		利	茂	助
				治		十					三				
人	人	六	耶	造	人	耶	人	人	人	六	耶次耶	人	平	造	六